様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１４６０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１７４４４

研究課題名（和文）ケアの論理に基づく市民性教育カリキュラムの開発と検証：ノルウェーとの共同を通して

研究課題名（英文）Development and reflection of citizenship education curriculum based on the ethics of care

研究代表者
橋崎　頼子（Hashizaki, Yoriko）

奈良教育大学・学校教育講座・准教授

研究者番号：３０６３６４４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では「正義の倫理」と「ケアの倫理」に基づくシティズンシップ教育のカリキュラムの研究と開発、振り返りを目的として行い、次のような成果を得た。まず「ケアの倫理」に基づく3年間の道徳教育カリキュラムを中学校と協働で開発・実践し、カリキュラムや授業設計上の要点を明確にした。次に3年間の中学校の生徒の学びの変容として、自己と他者を隔てる境界を批判的に問う、出会いを通して他者や自己内他者の声に耳を傾ける、人間の脆弱者に気づき互いを支え合いたいという願いを持つという学びがせん状に深まっていることを示した。第三に「正義の倫理」に基づく欧州評議会のカリキュラムの中心理念や開発プロセスを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究成果の学術的意義として、中学校の3年間における「ケアの倫理」に基づくシティズンシップ教育カリキュラムや授業設定の要点を示したこと、それにより他のカリキュラム開発や授業実践への示唆を示した点がある。特に、自己と他者の関係性を問い直したり編み直す過程を組み込んだ内容編成、ゆるやかに自他に対するまなざしや関わり方を変容させている生徒の学びの実態、生徒の意見を反映してカリキュラムの計画・実践・検証を繰り返す教師の取り組みを一体的に説明したことが特徴である。社会的意義として、人権や民主主義を重視した教育および社会の構築に資する視点を提供したことが挙げられる。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to analyze, develop and reflect on the citizenship education curriculum based on ethics of justice and ethics of care. The result of the research are as follows. Firstly, three-year citizenship education curriculum based on ethics of care in a junior high school was developed in cooperation with the co-researcher. The important elements for the curriculum development and the lesson planning that reflect ethics of care were identified. Secondary, through the lesson observation, analysis of students' writings and interview with several students, the researcher found the process of the students' learning on citizenship and caring. Thirdly, the citizenship education based on the ethics of justice were examined and the main competencies and development process were identified.

研究分野：市民性教育のカリキュラム研究

キーワード：シティズンシップ教育　カリキュラム　ケアの倫理　道徳教育

１．研究開始当初の背景

グローバル化の中で教育に求められる役割が大きく変化している。その一つが、国民教育からシティズンシップ教育への変化である。つまり、同一の言語、文化、歴史といった同質的な文化の保持を前提としたこれまでの国民教育から、当該国の国籍を持つとは限らず、異なる文化的背景を持つ学習者も含めて社会の構成員として育成する教育への変化である。このような異なる他者と同じ社会の構成員として生きていくために必要な力を学ぶシティズンシップ教育では、自己と他者の関係性やつながりをどのような原理をもとに位置づけるのかは重要である。本研究では、「正義の倫理」と「ケアの倫理」という二つの原理に着目した。日本では、自立した自己を基本として他者との討議を通して公正な社会構築を目指す「正義の倫理」に基づくシティズンシップ教育に関する研究や実践が多い中で、本研究では、人間の脆弱者や相互の関係性を中心においた「ケアの倫理」に基づくシティズンシップ教育の可能性を追求する必要があると考えた。

２．研究の目的

本研究では、日本の文脈におけるシティズンシップ教育のカリキュラムの可能性をケアの倫理を基本として検討し、それを学んだ中学生の学びの内実についても明らかにしていくことを目指した。具体的には、①日本の中学校における「ケアの倫理」に基づく 3 年間のカリキュラム開発をおこない、②そこでの生徒の学びの変容を明らかにする。またその際、③ノルウェーの研究者と共同して教材開発と授業の実施にも取り組むことを目指した。加えて④人権や民主主義といった「正義の倫理」を中心とした欧州評議会のシティズンシップ教育のカリキュラムの特徴の解明についても取り組んだ。

３．研究の方法

①中学校での 3 年間のカリキュラム開発：研究代表者である橋崎は、客観的な観察者というよりも、研究協力者と共に、アクションリサーチの形式でカリキュラム開発と改善の研究に取り組んだ。
②中学校での授業の参与観察：写真やビデオ等を用いて授業の記録を取り、後日、文字お越しをした上で、分析を行った。
③生徒の学びの考察：授業を受けた中学校の生徒たちの授業の様子の参観、ワークシートの記述の分析、在学中と卒業後にグループインタビューを行った。
④ノルウェーとの共同での教材開発：ノルウェーの少数民族（サーミ）の団体、難民支援センター、移民や難民の背景を持つ子どもが多い中学校での聞き取りを通して、所属やアイデンティティについて考えるための教材を開発した。
⑤欧州評議会が出版するシティズンシップ教育の教材や報告書の文献分析、オスロの欧州評議会のセンターでの聞き取りを行った。

４．研究成果

シティズンシップ教育を支える理念である「ケアの倫理」の考え方を取り入れた教科・領域横断的なカリキュラムとして、中学校の 3 年間の道徳教育カリキュラムを開発・実践し、生徒の学びの実態をもとに評価・考察を行うことができた。加えて、「正義の倫理」に基づく欧州評議会のシティズンシップ教育のコンピテンシーの理念や作成プロセスについて明らかにすることができた。具体的には、本研究の成果は下記の 3 点に整理することができる。

第一に、中学校の 3 年間の道徳教育カリキュラムを作成し、「ケアの倫理」を基盤においた実践としていく際にポイントとなる点を示した（Kitayama, Osler and Hashizaki 2017, 小嶋 2017, 2018）

カリキュラム作成のポイントとして、次の 4 点がある。

①中学校 3 年間の学びのつながりを意識する（特に、国民、民族、障がい、文化、アイデンティティなど、人と人を隔てる概念を批判的に検討できる授業を系統的に設けること
②教科領域横断的なカリキュラム設定とすること（認識を培う教科（社会科）、思考を深める道徳の時間、体験や活動を行う総合的な学習の時間や特別活動）を相互に関連付けること
③学年ごとに年間の中心テーマを設定するとともに、少人数でテーマを深めるグループ学習を設定し、体験を通した思考と活動をつなげること

授業づくりのポイントとしては、次の 3 点である。

①「国家」「社会」に翻弄されたり抑圧された経験を語っている（語った）人々との出会いの場を設定すること。ノルウェーの少数民族や難民・移民の中学生の語りも、多様な人との出会いとして位置付けた。
②子どもの声（問い、つぶやき等）を次の授業づくりに生かしてつくる
③学級の子どもの発言を引き出し、つなげることで聴き（響き）合う授業をつくる

なお、中学校での道徳教育実践を、教員養成の大学院の授業でも取り上げ、学生と議論を行った（橋崎、板橋、梶尾、後藤 2019）。

第二に、生徒のワークシートの記述、授業の発言、インタビューから、生徒の学びが 3 年間で

どのように深化していったのか、それを支える要因は何かについて明らかにした（小嶋 2018、橋崎・小嶋　2018、2019）。個人の変容に着目すると、他者との出会いを通して、「他者に関心を持つ、他者を理解したいと思う、共通性の発見（共感的理解）、他者に寄り添いたいと思う、他者を取り込む」というように変容していた。また、自己と他者の関係性の変容に着目すると、「わたしと他者の関係性を考えさせる（出会いの中で、他者の声なき声を聴く）」→「わたしの理解を超えたり、これまで排除してきた存在（他者や自己内他者）に気付き、向き合わせる」→「他者や自己を含む、人間の脆弱性に気づき、だからこそ互いに支え合いたいと願う学びをつくる（わたしをつくる（存在を成り立たせる）他者に気づく、他者を支える私に気づく）」というかたちで変化していた。

第三に、「正義の倫理」を中心におくシティズンシップ教育カリキュラムの事例として、欧州評議会が提案する「民主的文化のためのコンピテンシー参照枠」の作成過程や背景理念を考察した。参照枠の作成プロセスが、多様な関係者の意見を吸い上げながら作り上げるという「構築的」かつ「包摂的」なものとなっていることを示した（川口・橋崎 2018）。また、内容としては人権や民主主義、文化的多様性の尊重という価値を基盤いていることに加え、文化やアイデンティティを固定化したものとはせず、批判的な視点も取り入れながら構築することが求められていることを示した（橋崎 2018、橋崎・川口 2019）。

今後は、、「正義の倫理」と「ケアの倫理」視点を含むシティズンシップ教育の比較や相互補完関係についてより深く考察を行い、シティズンシップ教育への提案につなげていきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 7 件）

①橋崎頼子、板橋孝幸、梶尾悠史、後藤篤(2019) 「道徳の特別教科化の課題をふまえた実践開発と教師教育での活用―ケアと社会参加に注目した道徳教育を通して―」『奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀』5、pp.111-121. 査読有
(http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2019/CERD2019-R13.pdf)

②橋崎頼子（2018）「アイデンティティの複数性と動態的な文化理解にもとづく議論に向けた関係構築―欧州評議会におけるシティズンシップ教育の事例を通して―」『社会科教育研究』134、pp.98-107. 査読有

③Kitayama,Y and Hashizaki,Y.(2018)From Pity to Compassion: The Ethics of Care and Human Rights Education. *Human Rights Education in Asia-Pacific. Human Rights Education in Asia-Pacific.* 8、 pp.269-284. 査読無
(https://www.hurights.or.jp/archives/asia-pacific/section1/From%20Pity%20to%20Compassion.pdf)

④小嶋祐伺郎(2018)「他者との出会いが生起する「深い学び」についての一考察 ：「自他の関係性の再構築」に関わる道徳授業の実践から」『次世代教員養成センター研究紀要』4、pp.139-145. 査読有 (http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2018/CERD2018-R18.pdf)

⑤小嶋祐伺郎（2017）「地球市民意識を育む道徳性育成の実践的研究－多文化共生社会における市民性の育成の視点から－」『奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要』3、 pp.61-71. 査読有
(https://nara-edu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=12879&item_no=1&attribute_id=17&file_no=1)

⑥橋崎頼子、北山夕華、川口広美、南浦涼介（2017）「日本の教員養成課程の学生のナショナル・シティズンシップに対する意識ー日本とノルウェーの 7 大学における調査を通してー」『国際理解教育』23、pp.13-22.　査読有

⑦Kitayama,Y. , Osler,A. and Hashizaki,Y.(2017)Reimagining Japan and fighting extremism with the help of a superhero: A teacher's tale. *Race Equality Teaching*、 Volume 34、 Number 2、 June 2017、 pp. 21-27(7). UCL IOE Press. 査読有
DOI: https://doi.org/10.18546/RET.34.2.05

〔学会発表〕（計 11 件）

①橋崎頼子、川口広美(2019) 「欧州評議会における市民性育成のためのカリキュラム編成原理― 価値を中心とした民主的文化のためのコンピテンシー参照枠に基づいて」日本カリキュラム学会第 30 回研究大会

②橋崎頼子、小嶋祐伺郎（2019）「声なき声を聴くことを通した道徳教育実践」第 29 回日本国際理解教育学会研究大会

③Kitayama,Y and Hashizaki,Y. and Osler,A.（2019）Examining the Ethics of Care as an Inclusive Approach for Education for Social Justice. The 11th Korean Association for Multicultural Education (KAME) Conference（国際学会）

④小嶋祐伺郎（2018）「多元的アイデンティティを育む授業づくりの考察」日本社会科教育学会第 68 回全国研究大会（招待講演）

⑤橋崎頼子（2018）「ヨーロッパ市民育成の視点から＜欧州評議会の取り組みから＞」
第 26 回日本グローバル教育学会研究大会（シンポジウム）（招待講演）

⑥川口広美、橋崎頼子（2018）「社会的レリバンスの高いシティズンシップ教育カリキュラムの設計方略ー欧州評議会作成のリファレンス・フレームワークを事例としてー」日本カリキュラム学会第 29 回研究大会

⑦橋崎頼子、小嶋祐伺郎（2018）「多元的シティズンシップの基盤としての他者理解と自己変容—ケアを用いた 3 年間の道徳教育実践を通して—」第 28 回日本国際理解教育学会研究大会

⑧小嶋祐伺郎、橋崎頼子、北山夕華（2017）「多元的シティズンシップの基盤形成に資する道徳教育カリキュラム—ケアの倫理に基づく他者との関わりの問い直しを通してー」第 27 回日本国際理解教育学会研究大会

⑨Kitayama,Y. and Hashizak,Y.（2017）Emotional Terrain of Human Rights Education. European Consortium for Political Research（国際学会）

⑩橋崎頼子（2017）「ケアの倫理に基づく実践を通した多元的・多層的アイデンティティ形成に関する一考察」第 25 回日本グローバル教育学会全国研究大会

⑪橋崎頼子、川口広美、南浦涼介、北山夕華（2016）「日本の教員養成課程の学生のナショナル・アイデンティティに対する意識」第 26 回日本国際理解教育学会研究大会

〔図書〕（計 1 件）
①橋崎頼子（2018）「第 11 章　総合的な学習の時間とシティズンシップ教育」『総合的な学習の時間』ミネルヴァ書房.

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
＜雑誌論考＞
①草原和博、橋崎頼子（2018）「（世界の研究動向から考える〉社会科授業の理解に役立つ 12 のキー概念 (第 3 回) 今月のキー概念：Justice oriented citizen（正義志向の市民）」『社会科教育』明治図書.

＜翻訳＞

①オードリー・オスラー、ヒュー・スターキー、藤原孝章、北山夕華（監訳）『教師と人権教育』明石書店（橋崎頼子（2018）「第 2 章人権の文脈化」翻訳担当、 pp.41-56.）

６．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：小嶋祐伺郎

ローマ字氏名：Ojima Yujiro

所属機関：奈良教育大学附属中学校（現在は金沢学院大学）

研究協力者氏名：北山夕華

ローマ字氏名：Kitayama Yuka

研究機関：University College of South　East Norway（現在は大阪大学）

研究協力者氏名：オードリー・オスラー

ローマ字氏名：Audrey Osler

研究機関：University College of South　East Norway

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。